

双葉通信【第 253 回】(人生は旅人No.29) “ふくしまに恋をして 福島人に”

2025 年 8 月 5 日 上田 勉

東北の夏 短い夏 夏祭りの夏

日本中は猛暑とゲリラ豪雨の夏ですが、皆様はどのようにお過ごしでしょうか？

福島県浜通りは、梅雨でも雨は余り降りませんでした。稻や農作物にとって困ります。山形県のサクランボや福島県の桃にも影響を与えています。

そして 8 月、東北の夏は夏祭り一色です。盆踊り、行列踊り、山車等が各地で開催されます。1 年間の庶民のエネルギーが一挙に爆発します。

私も、東北六大祭りのさんさ踊り（岩手県盛岡市）と花笠まつり（山形市）を見に行きました。さんさ踊りも花笠まつりも共通点があります。

日には決まっています。さんさ踊りは 8 月 1 日～4 日、花笠まつりは 8 月 5 日～7 日です。曜日での変更はありません。

地域や企業団体の連が、踊りながら行進します。企業団体（特に大企業）の連は、浴衣姿も揃っています。しかし、この連の大企業が自民党に政治献金をしていると思うと、見ても怒りが沸きます。結構人数の多い連は、地元の市役所や議員団の連です。踊りへの情熱と同じくらい、行政や市政にもエネルギーを注いでもらいたいと思います。

やはり、地域の連が良いです。服装や踊りは揃っていない。子どもから高齢者まで一緒に踊ります。踊りの保存会のグループもあります。人口減少と高齢化の中で、踊りを伝承していって貰いたいです。

最近の特徴は、有料観覧席を設置することです（さんさ踊りは 1 人 4,000 円、花笠まつりは 1 人 3,500 円）。観覧席は、バスツアーの団体等が多いみたいです。庶民には手が届きません。

良い点は、飛び入り参加ができます。夕方に踊りの練習を教えてもらって、飛び入り参加の連で踊れます。“踊る阿呆にみる阿呆、同じ阿呆なら踊りやな損そん”（徳島市阿波踊り）の掛け声そのものです。

【さんさ踊り】「藩政時代から脈々と踊り継がれ、人々に愛されてきたさんさ踊り。一説によれば、その起源は盛岡市三ツ石神社の伝説にあると言われています。盛岡を中心に芸能として進化を遂げ、観客も参加して楽しむイベントとなり、今では東北を代表する祭りの一つと評されるまでに発展しました。」（「第 48 回盛岡さんさ踊り」）

【花笠まつり】「華やかに彩られた山車を先頭に、「ヤッショ、マカショ。」の勇ましい掛け声と花笠太鼓が高らかに真夏の夜に響き渡るなか、『花笠音頭』に合わせてあでやかな衣装に身を包んだ 1 万人を超える踊り手の躍動感あふれる踊りと、山形の花である『紅花』をあしらった笠の波がうねり咲きこぼれ群舞を繰り広げます。

以前は一糸乱れぬ正調花笠踊りの集団美が『山形花笠まつり』の醍醐味でしたが、今は華麗な“正調女踊り【薰風くんぶう最上川もがみがわ】”“勇壮な正調男踊り【藏王ざおう暁光ぎょうこう】”の他、花笠踊り発祥の地・尾花沢地方のダイナミックな“笠回

し』や、趣向を凝らした『創作踊り』など、多彩な踊りが観客を魅了する真夏の夜の祭典です。』（「花笠まつりについて」）



【ミスさんさとミス太鼓一さんさ踊り（盛岡市）】（2025年8月4日撮影）



【「ヤッショ、マカショ。」の掛け声で一花笠まつり（山形市）】（2025年8月7日撮影）